

の広尾産のツブとタコ刺し、時川先生（札幌）自家製のワインや差し入れのお酒、焼酎で、夜が更けるまで盛り上がったことは言うまでもない（両先生、大変美味しかったです）。

2日目、朝から雲が低く垂れこめ八百米台は下から見えないが、各班元気にリフトへ。

午前中は、視界が100米前後と見通しが悪く、ゴンドラ側の望洋コースを使用しての実技研修となりました。午後からの研修は、講師ローテーションで各班点呼中に雲が切れだし、全員で千米台まで登り、各班元気に実技研修を終了。この時期の雪質は、古傷を持つスキーヤーには相当厳しいらしく、途中でリタイアする人も……。しかし、皆さん元気ですね！



ガスで視界不良になることも

この日の理論研修の前段では、20世紀中頃のヨーロッパのスキー場のゲレンデ整備の様子、初期の圧雪機械やリフトの様子、雪崩防止のパトロール作業風景や救助の様子など、珍しい映像を見た後、昨年好評だったデモを交えての意見交換形式の理論研修となりました。

好成績を収めた3名のデモに対し、主任講師から今回の技選出場にあたって心掛けた事、気を付けた事、注意して取り組んだこと等々が質問されました。3名のデモからは、独自の自己管理の方法（食事、健康、トレーニングなど）を披露。縁起は担ぐのか？靴を履くときはどちらから？ミスをなくすルーティンがそれぞれにあることなどを暴露するなど、女性らしい興味深いお話を披露してくれました。

終了後、各デモから班ごとに記念写真が手渡され、総務主任から修了シールが一人、ひとりに渡され、理論研修は無事終了となりました。



質問に答える大川・小森・大場デモ（左から）

夕食後は、19時30分から役員・デモを交えての「座談会」と称して、参加自由の懇親会を開催。つぶ、タコ刺し、どぶろく、ワイン等の差し入れでこの日も参加者は全員元気！！

3名のデモも若さ爆発、スキー談義に花を咲かせてくれました。

3日目、羊蹄山の頂に薄雲がかかってはいるものの、絶好のスキー日和となりました。

全員で千米台まで登り、粉雪を満喫！下界はしまったザラメでバーンは良好、各班気温が上がる中、汗をかきながら仕上げの実技研修に取り組み、大きな怪我もなく無事終了。

閉会式では、登山本部長から「今回の研修で得た技術を、来シーズンに生かすため研さんを積んでください」と挨拶があり、藤島会長からは「成果のあった研修会だったと思います。来年も皆さんの参加を待っています」とお礼の言葉。来賓挨拶の後、土田主任講師からは、講評のあと「また来年も呼んでください」とリクエストが出され、締めめのシーハイルは3年連続して木村先生（85歳・苫小牧）が元気な声で三唱して、2018年度「春スキーの集い」スキルアップ研修会は盛会裏に終了しました。

デモ3人娘は大人気で、参加者からの握手攻めで別れを惜しんでおりました。

お世話になった関係者の皆様と参加者の皆様、ありがとうございました。

来シーズンもまた、ニセコで逢いましょう。

シーハイル！！